

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
1	地球儀を様々な角度から眺める活動を通して、地球が広い海と大地から成り立っていることに気が付き、今後の地理学習の展開に意欲をもつことができる。	<p>1 宇宙から地球の写真を見る。</p> <p>地球の表面を探ってみよう</p> <p>2 地球の表面の様子について、気づいたことを発表する。</p> <p>3 主な大陸、海洋の形状や名称を地球儀や地図帳で調べる。</p> <p>4 3で見つけた大陸、海洋を白地図に書き示す。</p> <p>《単元を貫く課題》 わたしたちの生活の場である地球は、どのような星なのだろうか。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>《ア - 》 大陸と海洋の大まかな形状と位置関係を地球儀や世界地図を活用して意欲的に調べ、白地図に正しく書き示している。</p> <p>《エ - 》 6つの大陸と3つの海洋を正しく理解している。</p> <p>&lt;場面&gt; 学習活動3, 4 &lt;方法&gt; 活動の様子 白地図への記入</p>	<p>白地図 地球儀</p> <p>できるだけ多くの地球儀を用意し、生徒が確実に地球儀に触れながら学習できるようにする。</p> <p>地球儀と白地図の対応をしやくするために、特徴的な大陸の形や日本の位置に着目するよう指導する。</p>
		わたしたちの生活する地球は、こんなに水(海)の多い星だとは知らなかった。大陸もあるけど6つもあるなんて知らなかった。これから中学校で勉強する地理はこんな地球で、人々がどのような生活をしているのかを探っていくのだと思う。だけど地球は大きいので、どこの勉強をするのかなど、位置の表し方や、特徴のある地名などもどんどん覚えていきたい。		
2	地球儀に描かれている緯線・経線の活用を通して、自分の知っている都市の位置を、緯度・経度という用語を用いて言い表すことができる。	<p>1 明石市の位置の表し方を考える。</p> <p>地球儀や地図帳を使って、正しく位置を言い表そう。</p> <p>2 地球儀や、地図帳を使って発表する。</p> <p>3 緯度・経度という用語を使って、都市の位置を言い表す。</p> <p>4 地球儀や地図帳に記されている、帰線や、極圏について理解する。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>《ウ - 》 緯線と経線の役割を正しく理解し、地球儀や世界地図を活用して、地球上の位置を緯度と経度を用いて正しく表現している。</p> <p>&lt;場面&gt; 学習活動3 授業後 &lt;方法&gt; 発言内容 学習プリント記述</p>	<p>地図帳 学習プリント</p> <p>地球の位置を示すものさしとしての緯線と経線の役割を正しく理解できるよう指導する。</p>
		今日までは、地球上の位置を表すときは何かの目印となる場所の北とか南などといった言い方をしてきたけれども、今日の勉強で習った「緯度」「経度」という言葉を使えば、誰にでも正確に位置を伝えられるとわかった。これからは、この用語を確実に使えるようにしていきたい。		
3	地球儀と地図帳を見比べる活動を通して、それぞれに長所と短所があることを理解し、それらの長所・短所を踏まえて活用することが大切であることを理解できる。	<p>1 地球儀のグリーンランド、ニューギニア島とマダガスカル島の面積と形を地図帳のものと見比べる。</p> <p>地球儀と地図帳は、同じ表現をしているだろうか。</p> <p>2 気づいた違いを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球儀と地図では面積が異なる。</li> <li>地図では北へいくほど面積が広い。</li> <li>地球を平面にうつすためにどうしても形を調整しなければならない。</li> </ul> <p>3 地球儀とひもを用いて、2点間の最短距離を調べて、地図上に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最短距離を地図上に表すと真っ直ぐな線にならない。</li> <li>地図は方角や距離も正確ではない。</li> </ul> <p>4 様々な図法で描かれた地図を見て、特徴の違いを考える。</p>	<p>《イ - 》 実際の地球と平面に描かれた世界地図の異なる点を考察し、「面積」「形」「方角」「距離」のうち、2つ以上の視点で、地球儀と地図の違いを見つけている。</p> <p>&lt;場面&gt; 学習活動2, 3 &lt;方法&gt; 発言内容 学習プリント記入</p>	<p>白地図 地球儀</p> <p>「面積」「形」「方角」「距離」の視点を明らかにして、具体的な地名を例に挙げて、地球儀と地図の違いを一つ一つ調べていくようにする。</p>
		地図帳は、地理の勉強をするのにとても便利なものだと思っていたけれども、それぞれに特徴があってそれを知らずに使うと、正しい活用ができないことがわかった。実際に地図帳を使うときに知っているといいことが他にはないだろうか。もっともっと勉強していきたい。		

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
4	地図帳でわかる情報には何があるのかを考えさせる活動を通してさくいんや縮尺の使い方が理解できる。	<p>1 様々な地図で、わかることが他にはないかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>便利な地図の使い方を考えよう。</p> </div> <p>2 インdexを使って、知らない地名を地図から見つける。 ・学習プリントを用いて調べ方を確かめ、いくつかの地名について地図から見つけ出す。</p> <p>3 縮尺を使って、ある場所からある場所の距離を求める。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>《ウ - 》 地図帳の「索引」を活用して地名を見つける方法と、「縮尺」を使って2点間の距離を求める方法を正しく理解して作業をしている。</p> <p>&lt;場面&gt; 学習活動2, 3 &lt;方法&gt; 活動の様子 プリントへの記述</p>	<p>地図帳 学習プリント 索引を活用するにあたっては、まずは一つの地名について一斉指導によって見つける方法を押さえ、班で確かめ合う場を設ける。 縮尺については、特に単位の変換について、個別指導を徹底する。</p>
<p>今日の勉強で、実際に地図帳を活用するとき知っている便利なことがたくさんわかった。例えば、索引の使い方や縮尺の意味や方位の言い表し方だ。これらのことを知っていれば地図帳を使って、たくさんの情報が得られそうだ。だけど今日の学習で使ったイギリスとは時差が9時間もあると書いてあった。聞いたことはあるんだけど何のことかわからない。次の時間に勉強をしたい。</p>				
5	世界の国々には、その国の生活にあった標準時を設けていることを知る活動を通して、簡単な時差を求めることができる。	<p>1 時差があるわけを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>時差の必要性と、求め方をマスタ - しよう。</p> </div> <p>2 どのようにして時差を求めることができるかを考える。 ・一般に経度の差が15度につき1時間の時差が生じる。 ・日本の標準時を統計135度として計算する。</p> <p>3 いくつかの都市について計算によって日本との時差を求める。</p>	<p>《エ - 》 日本の標準時子午線が明石市を通る東経135度であることを理解している。</p> <p>&lt;場面&gt; 学習活動2 &lt;方法&gt; プリントへの記入</p> <p>《ウ - 》 経度の差をもとに計算して正しく時差を求めることができる。</p> <p>&lt;場面&gt; 学習活動3 &lt;方法&gt; プリントへの記入</p>	<p>地図帳 学習プリント</p> <p>地球儀に光を当て、朝・昼・夕方・夜の違いが生じることを確かめ、経度の違いによって時差が生じることを押さえる。</p> <p>日付変更線の役割について地球儀を用いて説明する。</p>
<p>これまでの勉強で、経度の変化で時間の差を生むことがわたしたちの生活に欠かせないことや、緯度の変化で季節に大きな影響をあたえていることがわかった。地球儀や地図帳の使い方はわかってきたので、次の時間はこの地球上にはいったいどれくらいの国があるのか調べてみたい。</p>				